令 和 ９ 年 度

和歌山県立医科大学大学院医学薬学総合研究科
生命医療学専攻（博士課程）

学 生 募 集 要 項

（２次募集）

和歌山県立医科大学大学院医学薬学総合研究科

和歌山県立医科大学大学院医学薬学総合研究科
生命医療学専攻博士課程　アドミッション・ポリシー

ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、以下のような学生の入学を求める。

① 先端的な医学・薬学の卓越した知識と見識、高い倫理観、課題解決のための高度な能力を身に付けたい人

② 医学・薬学統合領域の専門知識や分野横断的な考察力により、医療の多種多様な課題を発見し、その解決に精力的に取り組み、世界レベルで活動したい人

③ リサーチマインドを持った高度医療人、共同研究や医療チームのリーダーとして、高度先進医療・地域保健医療を積極的に推進したい人

④ 医療分野において、大学、医療機関、企業等に勤める社会人としてキャリアアップを図り、教育・研究・臨床活動を高いレベルで実践し、社会貢献したい人

⑤ 本専攻課程での学修の基盤となる、医学・薬学の知識や研究能力、考察力、コミュニケーション力や英語力を持ち、主体的・協働的に研究に打ち込む態度を有する人

※養成する人材像、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及び各プログラムのアドミッション･ポリシーについては､下記の本学ホームページをご参照ください。

https://www.wakayama-med.ac.jp/dept/daigakuin-sougou/senkou/hakase4y/index.html

Ⅰ　入学期日

入学期日は、令和９年４月１日付けとする。

Ⅱ　募集人員

専　攻	課　程	プログラム	募集人員
生命医療学専攻	博士課程	先進医学プログラム 先進薬学プログラム	１７人

Ⅲ　領域・主科目

プログラム	区分	領　域	主科目
先進医学プログラム	A 区分	社会医学	法医学、環境保健予防医学、臨床感染制御学、成育社会医学、公衆衛生学
		形態機能医学	細胞生物学、分子機能形態学、システム神経生理学、統合分子生理学、機能調節薬理学、分子病理学、人体病理学、病理診断学（病理診断科育成コース）

プログラム	区分	領　域	主科目
先進医学プログラム	A 区分	細胞分子機能医学	代謝生物化学、分子遺伝学、病原微生物学、分子免疫学、難病発生学、分子病態解析学、分子細胞制御学、生体分子機能解析学、ゲノム機能制御学
	B 区分	総合医療医学	精神医学、放射線医学、リハビリテーション医学、救急・集中治療医学、麻酔科学、総合診療学、総合医療学、緩和医療学（緩和医療専門医養成コース）、地域医療学
		器官病態内科学	糖尿病・内分泌代謝内科学、消化器内科学、呼吸器内科学、循環器内科学、腎臓・体内環境調節内科学、血液内科学、脳神経内科学、リウマチ・膠原病科学、発達小児医学、腫瘍内科学（がん薬物療法専門医養成コース）
		器官病態外科学	胸部外科学、消化器外科学、脳神経外科学、整形外科学、形成外科学、泌尿器科学、生殖病態医学、視覚病態眼科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、皮膚病態学、口腔顎顔面外科学
先進薬学プログラム	C 区分	物理・化学薬学	薬品物理化学、薬品化学、生薬・天然物化学
		生命薬学	病態解析学、生物化学、分子生物薬学、生体機能解析学、衛生薬学
	D 区分	医療薬学	病態生理学、薬品作用学、薬物治療学、薬剤学
		臨床・社会薬学	病院薬学、医療薬剤学、医療情報薬学、医療開発薬学、腫瘍薬物療法学、高度がん医療人育成学（がん薬剤師養成コース）

注１．修業年限は４年を標準とします。

注２．入学出願者は、特に希望する場合のみ、主科目（研究分野）を２つまで選択することができます。この場合は、志望の順位を入学願書の所定欄に記入してください。

注３．募集人員には社会人を含みます。社会人とは、官公庁、研究所、企業、病院等に勤務若しくは入学後勤務予定の者をいい、勤務中の者については勤務成績が優秀で、入学後もその職を有する者をいいます。

注４．社会人が大学院教育を受けやすくするため、大学院設置基準第１４条の教育方法の特例を適用し、授業を夜間に開講するカリキュラムを実施します。

Ⅳ　入学出願資格

１　一般入試

（１）大学の医学、歯学、薬学若しくは獣医学を履修する課程（修業年限６年のものに限る。）を卒業した者又は令和９年３月までに卒業見込みの者

（２）学校教育法第１０４条第７項の規定により学士の学位（専攻分野が医学又は薬学）若しくは修士の学位を授与された者又は令和９年３月までに授与される見込みの者

（３）外国において、学校教育における１８年の課程を修了した者又は令和９年３月までに修了見込みの者

（４）外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における１８年の課程を修了した者又は令和９年３月までに修了見込みの者

（５）我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における１８年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者又は令和９年３月までに修了見込みの者

（６）外国の大学その他の学校において、修業年限が５年以上である課程（最終の課程は、医学、歯学、薬学又は獣医学）を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者又は令和９年３月までに授与される見込みの者

（７）学校教育法第１０２条第２項の規定により大学院（医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程に限る。）に入学した者であって、その後に入学させる本学大学院医学薬学総合研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者

（８）文部科学大臣の指定した者

①旧大学令による大学の医学又は歯学の学部において医学又は歯学を履修し、これらの学部を卒業した者

②防衛庁設置法による防衛医科大学校を卒業した者

③ア）大学院研究科において修士課程を修了した者又は令和９年３月までに修了見込みの者

イ）修士の学位の授与を受けることのできる者

ウ）前期２年及び後期３年の課程の区分を設けない博士課程に２年以上在学し、３０単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者で、本学大学院医学薬学総合研究科において、大学の医学、歯学、修業年限６年の薬学又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

④大学（医学、歯学、修業年限６年の薬学又は獣医学を履修する課程を除く。）を卒業し、又は外国において学校教育における１６年の課程を修了した後、大学、研究所等において２年以上研究に従事した者で、本学大学院医学薬学総合研究科において、当該研究の成果等により、大学の医学、歯学、修業年限６年の薬学又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

（９）大学（医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程に限る。）に４年以上在学し、又は外国において学校教育における１６年の課程（医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。）を修了し、本学大学院医学薬学総合研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者

（１０）本学大学院医学薬学総合研究科において、個別の入学資格審査により、（１）に掲げる者と同等以上の学力があると認めた者で、令和９年３月までに２４歳に達する者

（１１）その他本学大学院医学薬学総合研究科において、（１）に掲げる者と同等以上の学力があると認めた者

注 入学出願資格（７）、（８）③ウ）、（８）④、（９）～（１１）により出願しようとする者は、出願資格の認定が必要となります。（下記Ⅴ 出願資格審査 を参照）

２　海外在住者特別入試

出願時点で海外に在住し、入学試験を受験するために渡日することができない者で、「１　一般入試」の（１）～（１１）のいずれかに該当する者

Ⅴ　出願資格審査

入学出願資格（７）、（８）③ウ）、（８）④、（９）～（１１）により出願しようとする者は、出願前に資格審査等を行いますので、次の申請書類を期日までに提出すること。

資格審査申請書類提出期間	令和８年１１月１２日（木）～令和８年１１月１８日（水） ただし、 土、日曜日及び祝日を除く、午前９時から午後４時まで ＊郵送による場合も、同期間内に必着のこと（書留便）。
申請書類	ア　出願資格審査申請書・・・本学所定のもの イ　成績証明書・・・在籍又は出身大学長が作成したもの ウ　卒業証明書・・・在籍又は出身大学長が作成したもの エ　志望理由書・・・本学所定のもの オ　受験許可書・・・本学所定のもの（勤務先の許可書） カ　研究活動歴・・・本学所定のもの キ　研究計画書・・・本学所定のもの
提出場所	和歌山県立医科大学　学生課入試学務班 〒641-8509　和歌山市紀三井寺 811-1 TEL（073）441-0829 ※志望するプログラムに関わらず、提出先は上記です。

Ⅵ　願書受付期間及び受付場所

（１）　願書受付期間

受付期間	令和８年１１月２７日（金）～令和８年１２月７日（月） ただし、 土、日曜日及び祝日を除く、午前９時から午後４時まで

＊郵送による場合も、同期間内に必着のこと。

（２）受付及び試験事務取扱場所

〒641-8509　和歌山市紀三井寺 811-1

和歌山県立医科大学 学生課　入試学務班　TEL（073）441-0829

※志望するプログラムに関わらず、提出先は上記です。

Ⅶ　出願手続

出願者は、下記の提出書類を取り揃えて本学学生課に提出すること。郵送する場合は、必ず書留便によること。

出願にあたっては、事前に志望主科目（学位論文作成の基本となる科目）の主任教授等又は研究指導教員（P.12 以降の特別科目「担当教員欄」の◎印）の承諾を得て、願書の「主任教授等又は研究指導教員署名欄」に署名をもらうこと。

問い合わせ先　　和歌山県立医科大学 学生課　入試学務班　TEL（073）441-0829

1　一般入試

提出書類	【出願資格（１）～（６）、（８）①②③ア）イ）】 (1) 入学願書・履歴書・・・本学所定のもの (2) 志望理由書・・・本学所定のもの (3) 成績証明書・・・在籍又は出身大学長が作成したもの。ただし、本学医学部・薬学部卒業（又は見込み）者は、提出不要。 (4) 卒業証明書又は卒業見込証明書(本学出身者は不要) (5) 大学院研究科修士課程修了(又は見込み)者は、その修了(又は見込み)証明書及び成績証明書 (6) 写真２枚・・・出願前３か月以内に撮影したもの（正面上半身無帽で縦４㎝×横３㎝、カラー写真に限る） (7) 受験票・写真票・・・本学所定のもの *(8) 大学院準備課程（M. D-Ph. D コース）修学者はその修学証明書（写し） **(9)大学院準備課程登録者外国語試験合格者はその合格証明書（写し） (10)語学力を証明する資料［英語外部検定試験のスコア］ （語学試験の免除を希望する場合）・・・以下のうち、いずれか一つ ※試験日から２年以内のものに限る TOEFLPBT の成績通知書（500 点以上） TOEFLiBT の成績通知書（61 点以上） TOEIC 公開テスト（L&R）の成績通知書（590 点以上） （TOEIC-IP，TOEIC S&W，TOEIC Bridge は不可） IELTS(overall score）の成績通知書（5.5 以上） (11)研究計画書・・・本学所定のもの ※社会人（Ⅲ領域・主科目注３.参照）は上記に加え下記書類も提出 (12)受験許可書・・・本学所定のもの（勤務先の許可書） (13)研究活動歴・・・本学所定のもの
	【出願資格審査により認定を受けた者】 (1) 入学願書・履歴書・・・本学所定のもの (2) 出願資格認定書・・・出願資格審査後、事務局から送付します。 (3) 写真２枚・・・出願前３か月以内に撮影したもの（正面上半身無帽で縦４㎝×横３㎝、カラー写真に限る） (4) 受験票・写真票・・・本学所定のもの (5) 語学力を証明する資料［英語外部検定試験のスコア］ （語学試験の免除を希望する場合）・・・以下のうち、いずれか一つ ※試験日から２年以内のものに限る TOEFLPBT の成績通知書（500 点以上） TOEFLiBT の成績通知書（61 点以上） TOEIC 公開テスト（L&R）の成績通知書（590 点以上） （TOEIC-IP，TOEIC S&W，TOEIC Bridge は不可） IELTS(overall score）の成績通知書（5.5 以上）

検定料	30,000 円 同封の振込依頼書を使用のうえ、金融機関窓口（ゆうちょ銀行を除く銀行、信用金庫、信用組合等）で振込み（電信扱い）のこと。 （振込手数料は、本人負担となります。） 振込み後、入学検定料振込金受付証明書（C票）を、入学検定料納付書に貼り付けること。 ※ 本学大学院の修士課程又は博士前期課程を修了し、２年以内に引き続き大学院の博士課程に進学する者については、検定料を徴収しないものとする。

*本学医学研究科長名で発行された「修学証明書」も可

**「大学院医学研究科博士課程外国語試験合格証明書」も可

※ 出願書類等の不備及び記載内容が事実と相違する場合は受験させないことがある。また合格発表後や入学後においても、合格又は入学を取り消すことがあるので、留意すること。

※ 証明書等に記載された姓名が出願書類の氏名と異なる場合は、変更の事実を証する書類（戸籍抄本等）を提出すること。

※ 受験票の郵送を希望する場合は、受験票の返信用封筒（住所、氏名、郵便番号を表記し、書留速達料金を含む 890 円の郵便切手を貼った封筒）を同封すること。

２　海外在住者特別入試

上記「１　一般入試」の出願書類に加え、下記の書類を提出すること。なお、海外在住者特別入試で出願する場合は、「語学力を証明する資料」を必ず提出すること。

検定料については、「１　一般入試」の検定料の欄を参照すること。

提出書類	(1) 推薦状・・・１名以上の推薦状（日本語又は英語） (2) 受入教員の承諾書・・・受入教員から提出 (3) 語学力を証明する資料［英語外部検定試験のスコア］（再掲） ・・・以下のうち、いずれか一つ ※試験日から２年以内のものに限る TOEFLPBT の成績通知書（500 点以上） TOEFLiBT の成績通知書（61 点以上） TOEIC 公開テスト（L&R）の成績通知書（590 点以上） （TOEIC-IP，TOEIC S&W，TOEIC Bridge は不可） IELTS（overall score）の成績通知書（5.5 以上） (4) 顔写真付きの本人確認書類（パスポート等）の写し（カラー） (5) 受験票の返信用封筒（住所、氏名、郵便番号を表記し、国際書留料金を含む郵便切手を貼った封筒を同封すること。）

Ⅷ　受験上及び修学上の配慮を必要とする者の事前相談

入学を志願する者で、障害等があり、受験上及び修学上の特別な配慮を必要とする者は、次の事項を記載した書類（様式は任意）を添えて、出願受付開始日の前日までに願書受付場所に相談してください。

① 出願者の氏名、住所、電話番号
② 志望主科目及び指導を希望する教員名
③ 障害等の種類・程度（障害者手帳のコピー又は医師の診断書を添付）
④ 受験上及び修学上の配慮を希望する事項
⑤ 出身大学等でとられていた配慮、日常生活の状況など

Ⅸ　試験科目、試験期日及び試験場

１　一般入試

科　　目 期日時間	専門筆記試験	面　接	語学試験	試 験 場
令和９年１月８日（金）	１１：００～ １２：００	１３：３０～ １６：３０	１７：００～ １８：３０	高度医療人育成 センター５階

（備考）　ア　集合時間・場所は出願者に別途連絡する。
　　イ　専門筆記試験は、志望する主科目（研究分野）について行う。
　　ウ　語学試験は「英語」とする。辞書は持ち込み可。（電子辞書は不可）
　　エ　Ⅶ出願手続の提出書類（9）又は（10）を提出した受験者は語学試験が免除される。
　　※受験者は、試験開始２０分前までに試験場に参集のこと。
　　※試験場は変更することがあります。変更がある場合は、別途出願者に連絡します。

２　海外在住者特別入試

科　　目 期日時間	専門筆記試験及び面接 ※対応言語は原則、日本語又は英語
令和９年１月８日（金）	１３：３０～１６：３０

（備考）　ア　試験日時は出願者に別途連絡する。
　　イ　専門筆記試験は、志望する主科目（研究分野）について口頭試問を行う。
　　ウ　試験はオンライン方式で実施する。詳細は試験日時とともに通知する。

X　選抜方法及び配点

基準を満たす英語外部検定試験のスコアを提出した者及び大学院準備課程登録者外国語試験合格者は、本学の語学試験を免除します。語学試験が免除となる英語外部検定試験及びスコアの基準点は「Ⅶ　出願手続」の提出書類の欄を参照してください。

英語外部検定試験のスコア又は本学の語学試験の点数は、入学に必要な英語能力の判定に使用します。最終合格者の判定は、専門筆記試験（100 点満点）、面接（100 点満点）、英語能力及び出願書類等により総合的に行います。

XI　合格発表

令和９年２月１９日（金）１６時３０分
本学ホームページ上に２月１９日（金）１６時３０分から一定期間掲載するとともに、合格者本人あてに郵送にて通知する。
掲載場所：本学ホームページ>入試・入学案内>大学院医学薬学総合研究科>合格発表

XII　入学手続

手続期間	令和９年３月３日（水）～令和９年３月９日（火） ただし、 土、日曜日及び祝日を除く、午前９時から午後５時まで
提出書類	(1) 卒業見込みで受験した者は、卒業証明書(本学出身者は不要) (2) 在学誓約書　本学所定のもの (3) 写真２枚　　願書と同一のもの
入 学 金	282,000 円 ただし、本学大学院の修士課程又は博士前期課程を修了し、２年以内に引き続き大学院の博士課程に進学する者については、入学金を徴収しない。

＊　期日までに手続を行わなかったときは合格を取り消すことがある。

XIII　授業料

年額 535,800 円（毎年５月、１１月の２回に分納する。）

XIV　その他

(1) 出願手続後は、理由を問わず、検定料は返還しない。
(2) 入学手続後は、理由を問わず、入学金は返還しない。
(3) 募集要項、願書等は 320 円の郵便切手を封入の上、本学学生課へ請求のこと。(返信用封筒不要)　※出願書類は、本学ホームページ
(https://www. wakayama-med. ac. jp/dept/daigakuin-sougou/bosyuuyoukou.html)
よりプリントアウト可能

(4) 入学金、授業料等の額は、改定されることがある。在学中に授業料の改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用される。
(5) 職業を有している等の事情により、標準修業年度を超えて、一定期間にわたり計画的に教育課程を履修し、課程を修了することを希望する場合に、長期履修制度を申請することができる。申請者は、別途指定する期日までに学生課窓口へ申し出ること。
(6) 本学では、出願及び入学手続にあたって提出された個人情報は、入学試験の実施、合格発表、入学手続及び入学後の学生生活関連業務において使用します。本学が取得した個人情報は、第三者に提供することはありません。
(7) 過去の入試問題（語学試験のみ）の閲覧については、事務局学生課入試学務班（電話 073-441-0829）までお問い合わせください。
(8) 気象警報の発令や公共交通機関の乱れ、大規模災害、感染症などにより、所定の日程による試験実施が困難となるような不測の事態が生じた場合は、試験の中止・延期等の対応について、下記ホームページでお知らせします。
本学ホームページ　https://www.wakayama-med.ac.jp/
(9) 本学では、入試における公平性・公正性を確保するため、不正行為には厳正に対処します。不正行為の範囲や不正行為への対応については、ホームページに掲載していますので、確認してください。
(10) 本学には、入学金・授業料の減免制度や和歌山県立医科大学青洲基金大学院奨学金（給付型）などの学生が利用できる経済支援制度があります。また、日本学生支援機構の奨学金（貸与型）も利用可能です。各制度を利用するには申請が必要です。詳細や申請方法については、ホームページに掲載しています。

奨学金関係　　減免制度関係　　青洲基金大学院奨学金

令和８年１１月

和歌山県立医科大学大学院医学薬学総合研究科
〒641-8509　和歌山市紀三井寺 811-1（医系）
〒640-8156　和歌山市七番丁 25 番 1（薬系）

和歌山県立医科大学大学院医学薬学総合研究科　生命医療学専攻博士課程の概要

1　目　　的

高度先進的かつ分野横断的な大学院教育により、共同研究のリーダーとして国際的に活躍できる先端的医学・薬学研究者、高度先進医療・地域保健医療の現場で医療チームのリーダーとして活躍できる高度医療人又は大学等の高度な教育者等を育成することを目的としています。

2　標準修業年限　　４年

3　授与する学位　　博士（医学）、博士（薬学）

4　修了要件

博士課程に４年以上在学し、所定の単位（３５単位以上）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること

5　授業科目一覧

科目区分	授業科目	単位数		備　考
		必修	選択	
共通科目	研究倫理・医療倫理学Ｂ	1		３単位
	多職種連携Ｂ	1		
	医療情報リテラシーB	1		
ベーシック科目	発展的研究方法論	1		５単位以上 ※基礎医学・薬学特論Ⅰ、基礎医学・薬学特論Ⅱから１単位、地域医療課題特論Ⅰ、地域医療課題特論Ⅱから１単位
	疫学方法特論	1		
	Advanced Academic English	1		
	基礎医学・薬学特論Ⅰ		1	
	基礎医学・薬学特論Ⅱ		1	
	地域医療課題特論Ⅰ		1	
	地域医療課題特論Ⅱ		1	
専門科目	分子生命科学特論＊		1	５単位以上 ※先進医学プログラム選択生は＊印から３単位以上、☆印から１単位以上、◇印から１単位以上 ※先進薬学プログラム選択生は＊印から１単位以上、☆印３単位必修、◇印から１単位以上
	感染症学特論＊		1	
	病理病態学特論Ｂ＊		1	
	腫瘍学特論＊		1	
	最新臨床薬理学特論☆		1	
	免疫・発がん特論☆		1	
	神経再生・発生・疾患学特論☆		1	
	死因究明学特論◇		1	
	医療データサイエンス学特論Ｂ◇		1	
特別科目	特別演習Ⅰ		2	２２単位 ※１０領域から選択 ※主科目（１８単位）＋副科目１・２（特別演習Ⅰ：２単位×２）
	特別演習Ⅱ		2	
	特別研究		１４	

6　長期履修制度

社会人学生で職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて、一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することができる制度です。社会人学生でも長期履修制度を活用することにより、研究時間を確保することができます。

講義等の概要

※下記概要に従い、授業を行いますが、内容が若干変更となる場合があります。

＜共通科目＞

授業科目	概　　要
研究倫理･医療倫理学 B	医学・薬学における教育、研究及び臨床は、生命に対する尊厳や倫理観をもって行われなければならない。本講義では、動物実験や遺伝子組み換え実験などにおける研究倫理及び臨床現場での医療倫理について考察し、先端的医学・薬学研究者、高度医療人として求められる高い倫理観を養う。
多職種連携 B	地域の保健医療課題の解決においては、各分野を専門とする医療従事者の連携が重要である。本講義では、医学、薬学、保健看護学の観点から多職種連携の実践に係る手法・知識を修得することを目的とする。
医療情報リテラシーB	医療ビッグデータやゲノム情報などの医療情報を取り扱う研究分野の重要性が増していることから、医療情報の処理や活用の方法を倫理的な観点も含めて修得する。

＜ベーシック科目＞

授業科目	概　　要
発展的研究方法論	電気生理学的実験方法や社会調査法、トランスレーショナルリサーチなどの発展的研究方法や研究の進め方などについて学び、研究を遂行する上で必要となる専門的知識を修得する。
疫学方法特論	本講義では、ヒト集団を対象とした広義の疫学研究（いわゆる臨床研究も含む）の立案や、関連論文の批判的吟味に必要とされる疫学の重要概念や研究手法を系統的に理解・修得することを目的とする。
Advanced　Academic English	医療系の英語論文の読み方や発展的な文法知識、英語論文を執筆する際のルール、学会等でのプレゼン方法などについて学び、国際的活躍の基盤となる英語論文による発信方法を修得する。
基礎医学・薬学特論 I	実験動物モデルの作成手法や先端的医学薬学研究推進の基盤となる生理学、分子病態解析学、生体機能解析学などの医学、薬学両分野における知識を身につける。専門分野以外の知識・見識も修得することにより、医学薬学横断的な観点から考察する能力を修得するための基礎を築く。
基礎医学・薬学特論Ⅱ	先端的医学薬学研究推進の基盤となる薬理学、分子機能形態学、薬品作用学などの知識を身につける。医学、薬学の両分野から専門分野以外の知識・見識も修得することにより、医学薬学横断的な観点から考察する能力を修得するための基礎を築く。
地域医療課題特論 I	本県におけるがんや脳血管障害、循環器疾患、糖尿病などの状況について学び、地域の保健医療課題に対する理解を深めるとともに、自ら課題を発見する能力や幅広い観点から考察する能力の基盤となる知見を修得する。
地域医療課題特論Ⅱ	本県における地域医療の現状や救急医療、周産期医療などについて学び、地域の保健医療課題に対する理解を深めるとともに、自ら課題を発見する能力や幅広い観点から考察する能力の基盤となる知見を修得する。

＜専門科目＞

授業科目	概　　要
分子生命科学特論	本講義では、高度な基礎研究の推進に必要な生化学及び分子遺伝学の専門的知識を修得する。代謝や遺伝、免疫といった生体の様々な現象を担う生体分子の構造や機能、動態を分子レベルで理解することにより、人の健康や病気の仕組みを様々な手法を用いて解明し、病気の診断や治療の開発につなげるための高度な研究能力を養う。
感染症学特論	新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大など、昨今新たな感染症への対策の重要性がますます増している。本講義では、新型コロナウイルス感染症を含めた様々な感染症について理解を深め、新たな感染症の予防や治療に関する高度な研究能力を身につける。
病理病態学特論 B	様々な疾患について病理学に関する高度な知識を修得するとともに、基礎病理学的研究及び診断病理学的研究の手法を身につけ、疾患の診断や治療に応用できる高度な研究能力を培う。
腫瘍学特論	内視鏡診断や放射線治療・ゲノム医療・手術などの治療、緩和ケアなど様々な観点からがんに関する最新の知見を学ぶ。また、各臓器別のがんの知識を修得し、地域の保健医療課題の一つであるがん医療について深く考察する能力を養う。
最新臨床薬理学特論	最新の薬物治療、薬物療法や医療安全における臨床薬理学の役割や臨床応用等について概説する。
免疫・発がん特論	免疫系の破綻や感染症はがんの発症と密接に関わっている。免疫システムの構築、発がんのメカニズムについて概説し、両者の攻防について解説する。
神経再生・発生・疾患学特論	中枢神経系や末梢神経系を構成する神経細胞やグリア細胞の発生、発達や役割について紹介する。また、神経変性疾患、発達障害や末梢神経障害の病態や発症機序について概説する。さらに、当該疾患に対する主要な治療薬の作用機序、副作用について説明するとともに、再生医療の可能性と課題について概説する。
死因究明学特論	死因論、死後画像診断、児童虐待、毒と解毒など医学・薬学両分野から損傷の成傷機転や死因究明に係る知識・考察法などを学び、法医学を中心とした最新の知見を修得する。
医療データサイエンス学特論 B	近年、医療ビッグデータやゲノム情報など医療関連分野のデータ活用が重要視されている。本講義では、統計学をツールとして利用し医学・疫学データに適用することにより、病態の原因解明や診断のための基礎研究、個別化医療・予防医療に関する研究等に応用する能力を養い、データサイエンスに強い人材を育成することを目指す。

＜特別科目＞※担当教員欄の職位は、認可決定時又は専任教員採用等設置計画変更後のものを記載

区分	領域	主科目	担当教員 （◎研究指導教員）	授業の概要
A区分	社会医学	法医学	◎教授　近藤　稔和 准教授　石田　裕子 講師　野坂みずほ ◎講師　石上安希子	【特別演習Ⅰ】 法医学の損傷に関する最新の文献を読み発表する。 【特別演習Ⅱ】 法医学の中でも突然死や自殺の異状死に関する最新の文献を読み発表・議論する。 【特別研究】 損傷死、中毒死、突然死のモデルを樹立してその分子メカニズムを解析する。
		環境保健予防医学	◎教授　藤吉　朗 准教授　東山　綾 ◎助教　竹村　重輝	【特別演習Ⅰ】 ①生活習慣病の予防に関する特定のトピックを選択し、それに関する知見の収集・整理を行い発表する。②統計ソフトの基本操作演習を行う。③「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」を学ぶ。 【特別演習Ⅱ】 ①生活習慣病の予防に関する論文を精読し、内容の説明及び建設的批判的吟味を加えて発表する。②学会発表に準じた形でのプレゼンテーションや学術論文に準じた形式での報告書作成を行う。 【特別研究】 ①論文作成に必要な背景知識（統計、倫理申請書を含む）を理解し、指導のもと可能な限り関連した実務も行う。②研究テーマにつき学会発表を目指し、博士論文を執筆する。
		臨床感染制御学	◎教授　小泉　祐介	【特別演習Ⅰ】 臨床感染症学　（感染症の病態・疫学・診断・治療）に関する概説的な講義を行う。 【特別演習Ⅱ】 感染制御学（院内感染や感染制御の基本）に関する概説的な講義を行う。 【特別研究】 感染症領域の研究手法、論文作成について指導を行う。
		成育社会医学	◎准教授　北野　尚美	【特別演習Ⅰ】 子どもの健康の主要テーマに関わる先行研究調査の進め方をセミナー形式で演習する。収集した論文の批判的吟味と知見のレビューをセミナー形式で演習する。 【特別演習Ⅱ】 研究チームの一員としてフィールドスタディに参加して子ども集団を観察し、健康状況や環境因子の測定に関わる経験をする。子どもの年齢や発達段階に応じた健康状況把握のための指標と、妊娠期（胎児期）から子ども期の生育環境の曝露指標につい

区分	領域	主科目	担当教員 (◎研究指導教員)	授業の概要
A区分	社会医学	成育社会医学		て、既存データセットを用いてセミナー形式で演習する。 【特別研究】 具体的に選定した研究テーマについて、先行研究調査によってこれまでの知見を整理して研究仮説の導出を指導し、研究計画の立案を指導する。地域や学校でのフィールドスタディに研究チームの一員として参画できる研究環境を準備し、収集したデータをもとに研究論文作成を指導する。
		公衆衛生学	◎教授　上田　豊	【特別演習Ⅰ】 子宮頸がんをはじめとする女性特有のがんの罹患・死亡の疫学的動向などの最新データを紹介し、その特徴を学ぶ。 【特別演習Ⅱ】 子宮頸がん等の予防に関し、最新のデータも交えて概説的な講義を行う。 【特別研究】 予防できる感染やがんの対策について概説し、その予防法の向上や普及に向けた研究活動を指導する。
	形態機能医学	細胞生物学	◎教授　金井　克光 ◎講師　山本　悠太 ◎講師　伊藤　隆雄 ◎助教　山岸　直子	【特別演習Ⅰ】 脂質代謝序論：消化管、内分泌及びエネルギー代謝に関する概説的な講義を行う。また、最新の知見の論文を読み、教員と議論を行うことで科学的な思考を修得する。血中脂肪調節研究に必要な研究手法を修得する。 【特別演習Ⅱ】 血中脂肪調節における最近の動向：最新の血中脂肪調節に関連する論文を読み最新の研究動向について理解するとともに、教員と議論を行うことで科学的な思考を修得する。また、血中脂肪調節研究で得られた結果からどのような結論が導き出されるかを考えたり、研究結果の発表方法について修得する。 【特別研究】 血中脂肪調節に関する解析手法： 血中脂肪調節に関する研究指導を行う。研究結果の論文作成の指導を行う。
		分子機能形態学	◎教授　小森　忠祐 ◎助教　久岡　朋子	【特別演習Ⅰ】 摂食調節、代謝調節、神経精神発達、免疫応答などの生体調節機構について、細胞培養、ウェスタンブロット・サザンブロット・リアルタイムPCR、遺伝子クローニングなど、分子細胞生物学的実験技術について講義し、実技指導を行う。 【特別演習Ⅱ】 摂食調節、代謝調節、神経精神発達、免疫応答など

区分	領域	主科目	担当教員 (◎研究指導教員)	授業の概要
A区分	形態機能医学	分子機能形態学		の生体調節機構について、免疫組織化学、in situ hybridization 法などの組織学的実験技術及び行動生理学的実験技術について講義し、実技指導を行う。 【特別研究】 組織学的手法のみならず、分子生物学的手法や行動生理学的手法を用い、サイトカインによる生体機能の調節とその異常による病理・病態の解明及びそのメカニズムに基づいた治療法の開発に関連した研究指導を行う。
		システム神経生理学	教授　小林　克典 ◎講師　井辺　弘樹 ◎助教　堂西　倫弘	【特別演習Ⅰ】 神経細胞あるいは組織の電気活動の記録と解析方法を説明する（小林克典）。神経組織の免疫、分子生物学的解析の方法を説明する（井辺弘樹）。動物の行動実験の方法を説明する（井辺弘樹）。脳機能的磁気共鳴画像（fMRI)による脳機能の解析方法を説明する（堂西倫弘）。実験データ（ヒトと動物）の収集（動物の行動実験を含む）を行い、電気生理学的、免疫分子生物学的手法及び fMRI によるデータの解析を演習する。 【特別演習Ⅱ】 中枢神経機能について、研究論文を抄読し、電気生理学的実験の結果をまとめる（小林克典）。疼痛制御とストレスの神経機構について、研究論文を抄読し、動物の行動実験と解剖学的実験の結果をまとめる（井辺弘樹）。ヒトの脳機能について、研究論文を抄読し、脳機能的磁気共鳴画像（fMRI)の解析による実験の結果をまとめる（堂西倫弘）。 【特別研究】 精神疾患の神経機構に関する研究の現状（方法を含む）を学び、電気生理学的実験を遂行して、論文の作成に至る（小林克典）。疼痛制御とストレスの神経機構に関する研究の現状（方法を含む）を学び、動物の行動実験と免疫分子生物学的実験を遂行して、論文の作成に至る（井辺弘樹）。ヒトの脳機能的磁気共鳴画像（fMRI)の解析による脳機能の研究の現状（方法を含む）を学び、画像データの収集と解析を遂行し、論文の作成に至る（堂西倫弘）。
		統合分子生理学	◎教授　中田　正範 准教授　廣野　守俊 ◎講師　稲葉　秀文	【特別演習Ⅰ】 生理学的研究手法に関して文献を用いて解説し、その有用性と応用性を学び、手技の修得を指導する。 【特別演習Ⅱ】 生理学的研究手法の原理を理解させ、生活習慣病の病態モデル動物等を用いて実験を指導する。 【特別研究】 生理学的研究手法を用いて実験を行い、データを集積する。文献の収集と議論を行い、データの解析と

区分	領域	主科目	担当教員 (◎研究指導教員)	授業の概要
A区分	形態機能医学	統合分子生理学		考察を進めて論文作成を指導する。
		機能調節薬理学	◎教授　西谷　友重 講師　納富　拓也 講師　陳　以珊 ◎助教　安田　純平	【特別演習Ⅰ】 イオンシグナル制御機構とその解析法：興奮性組織におけるイオンシグナル制御機構とその解析に必要な生理学的、分子生物学的、生化学的な解析方法について解説する。 【特別演習Ⅱ】 イオンシグナル制御機構とその破綻による疾患：興奮性細胞のイオンシグナル制御機構とその破綻による疾患に関し解説する。また最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、当該分野の理解を深める。 【特別研究】 イオンシグナル異常による疾患の発症機構の解明と薬物療法についての研究指導を行う。またデータ収集・解析、英文での執筆など論文作成の指導を行う。
		分子病理学	◎教授　江崎　正悟 講師　中西　雅子 講師　及川　恒輔	【特別演習Ⅰ】 がん研究における生化学的・分子生物学的解析手法：がんの悪性化や転移に関する論文を読み、最新の研究動向を理解する。また、がん研究における生化学的・分子生物学的解析手法の修得を目指す。 【特別演習Ⅱ】 がん細胞の悪性形質の解析手法：がんの悪性化や転移に関する論文を読み、最新の研究動向を理解する。また、がん細胞の悪性形質の解析手法の修得を目指す。 【特別研究】 形態学的情報・遺伝子発現に基づくがん細胞の形質の解析などを通じた治療標的の同定に係る研究指導を行う。
		人体病理学	◎教授　小島　史好	【特別演習Ⅰ】 蛍光を使った研究手法を理解する。1）蛍光の基本的特性を理解する。 2）下記のような細胞・組織内分子(protein, DNA, RNA, etc)に対する研究手法を理解する。 ① 分子の局在の視覚化 immunofluorescence 法、FISH (fluorescence in situ hybridization) 法 ② 分子の動き GFP (green fluorescence protein) 法 FRAP (fluorescence recovery after photobleaching) 法 FLIP (fluorescence loss in photobleaching) 法

区分	領域	主科目	担当教員 （◎研究指導教員）	授業の概要
A区分	形態機能医学	人体病理学		③ 相互関係 FRET (fluorescence resonance energy transfer) 法 ④ 量の測定，分布の数字化 morphometry、 texture analysis 【特別演習Ⅱ】 病理学的見地に立った研究を行うにあたって、研究の仮説と目的、研究材料と手法、結果の解釈、文献的なデータも加えた考察をどのように行うかを学ぶ。 【特別研究】 下記のような基礎的研究と人体検体を使った人体病理学的研究を結合して行う方法を提示する。 １）基礎的研究による細胞生物学的現象の解析 培養細胞や実験動物を使い、細胞生物学的現象の解析を行い、研究の基礎的側面を確立する。 ２）人体検体を使った臨床病理学的解析 基礎的研究による細胞生物学的現象の解析の結果を踏まえ、人体検体へ応用し、臨床病理学的解析を行う。
		病理診断学／病理診断科育成コース	◎教授　　小島　史好	【特別演習Ⅰ】 根拠に基づいた論理的病理診断法を理解する。そのための様々な分子病理学的解析手法や人工知能的形態解析法の原理の理解と実践を行う。また、その結果を臨床現場において還元する。 【特別演習Ⅱ】 病理診断学的見地に立った研究を行うにあたって、研究の仮説と目的、研究材料と手法、結果の解釈、文献的なデータも加えた考察をどのように行うかを学ぶ。 【特別研究】 病理診断学に直結する臨床的および基礎的研究を行う方法を提示する。 １）人体検体を使った臨床病理学的解析 人体検体を用いた臨床病理学的解析を行う。 ２）基礎的研究による細胞生物学的現象の解析 人体検体を用いた臨床病理学的現象の基盤となる細胞生物学的現象を解明するため、培養細胞や実験動物を使いた基礎的研究を行う。

区分	領域	主科目	担当教員 (◎研究指導教員)	授業の概要
A区分	細胞分子機能医学	代謝生物化学	◎教授　井原　義人 准教授　西辻　和親	【特別演習Ⅰ】 文献抄読会、リサーチセミナーでの発表・討論を通じて、糖質・脂質の代謝と細胞機能について理解、考察する。 【特別演習Ⅱ】 文献抄読会、リサーチセミナーでの発表・討論を通じて、タンパク質・生理活性分子の代謝と細胞機能について理解、考察する。 【特別研究】 タンパク質の“糖鎖/糖付加修飾”に焦点を絞り、糖質科学の観点から細胞機能を評価するため、生化学的な分離・精製、解析、分析などについて研究指導を行い、研究成果をもとに論文作成の指導を行う。
		分子遺伝学	◎教授　井上　徳光 ◎准教授　馬場　崇	【特別演習Ⅰ】 分子遺伝学基礎演習 : 様々な遺伝子疾患を例にとりながら、遺伝子疾患の分子メカニズム・診断技術を学び、遺伝子疾患を遺伝子や分子から理解するのに必要な知識や方法を身につけるとともに、実際に実験を行うことで技術の修得を目指す。 【特別演習Ⅱ】 分子遺伝学応用演習 : 補体関連疾患やがんの微小環境形成に関わる分子メカニズムを理解し、分子メカニズムの解明、診断方法の開発、治療戦略の開発をするために必要な知識や方法について考察し、理解を深める。 【特別研究】 補体関連疾患やがんの微小環境形成に関わる分子メカニズムを理解し、分子メカニズムの解明、診断方法の開発、治療戦略の開発について研究指導を行う。
		病原微生物学	教授　金井　祐太 ◎講師　太田　圭介	【特別演習Ⅰ】 病原微生物の研究のために必須の操作である無菌操作の技術を修得する。 【特別演習Ⅱ】 問題となっている感染症を引き起こすウイルスに関する最新の文献を抄読し、その内容に関して発表し、議論を行うことにより、理解を深める。 【特別研究】 ウイルス感染価の定量法、ウイルス遺伝子の検出法、ウイルス抗原の検出法などについて指導を行い、ウイルス増殖の研究について指導する。

区分	領域	主科目	担当教員 (◎研究指導教員)	授業の概要
A区分	細胞分子機能医学	分子免疫学	◎教授　邊見　弘明 ◎講師　佐々木　泉	【特別演習Ⅰ】 自然免疫と獲得免疫が連関して、生体防御がどのように達成されるのか、またその破綻によりどのような病態が生じるのかを、遺伝子、分子、細胞、個体レベルで理解することを目指す。教員と共に、関連文献を読み、議論することにより、免疫のしくみ、解析手法の基本について理解することを目指す。 【特別演習Ⅱ】 自然免疫と獲得免疫が連関して、生体防御がどのように達成されるのか、またその破綻によりどのような病態が生じるのかについて、専門的な知見、解析方法を理解、修得することを目指す。最近の論文を抄読し、研究動向を理解し、さらに、実験結果の解釈方法、発表法について理解、修得することを目指す。 【特別研究】 自然免疫と獲得免疫が連関して、生体防御がどのように達成されるのか、またその破綻によりどのような病態が生じるのかについて、統合的に理解し、その成果を発表する。得られた研究成果について、学会発表、論文発表を行えるように指導する。研究計画の立案作成、データの収集、解析、結果を受けてのさらなる実験計画の構成を行えることを目指す。また、成果について、地域、世界にいかに貢献するかを効果的に表現、発信する能力を修得することを目指す。
		難病発生学	◎教授　齋藤伸一郎 講師　安藝　大輔 助教　齋藤　良子	【特別演習Ⅰ】 自己免疫疾患又は神経変性疾患について教科書や総説等をもとにリサーチセミナーでの発表と討論を通じて各難病について最新の動向を理解する。 【特別演習Ⅱ】 自己免疫疾患又は神経変性疾患についての原著論文の抄読とリサーチセミナーでの発表と討論を通じて各難病について最新の動向を理解する。 【特別研究】 自己免疫疾患や神経変性疾患等のモデルマウスを作製し解析することで病気の発症機構を解明するための研究の指導を行う。また、臨床の組織サンプルを解析することで病気の発症とオルガネラ異常との関係を解明するための研究指導を行う。さらに研究結果をもとに学会発表や論文作成について指導を行う。

区分	領域	主科目	担当教員 (◎研究指導教員)	授業の概要
A区分	細胞分子機能医学	分子病態解析学	◎教授　橋本　真一	【特別演習Ⅰ】 ゲノム関連の悪性腫瘍、炎症疾患、感染症などについての最新の関連論文、解析法を紹介しながら概説する。 【特別演習Ⅱ】 ゲノム関連の悪性腫瘍、炎症疾患、感染症などについての最新のゲノム関連の解析結果の解釈法や発表方法について授業を行う。 【特別研究】 臨床医学と連携した研究課題を中心に研究を進め、疾患におけるゲノム・オミックス解析を中心とした分子病態解析法を用いた研究の指導を行う。
		分子細胞制御学	◎准教授　森田　強	【特別演習Ⅰ】 線維芽細胞や免疫細胞など間質細胞に関する研究の基礎的内容と最近の動向を学習する。 【特別演習Ⅱ】 癌や組織線維化など間質細胞の活性化を伴う疾患に関する最近の動向を学習する。 【特別研究】 癌や組織線維化など間質細胞の活性化を伴う疾患に関して、シグナル伝達や遺伝子発現制御の観点から解析を行う。
		生体分子機能解析学	◎教授　茂里　康	【特別演習Ⅰ】 以下のような内容について、授業を行う予定である。１．各種質量分析法の分析原理　２．各種分光分析法の分析原理　３．生体分子の各種構造決定法の分析原理 【特別演習Ⅱ】 以下のような内容について、授業を行う予定である。１．質量分析法の最新の研究成果　２．各種分光分析法の最新の研究成果　３．生体分子の各種構造決定法の最新の研究成果 【特別研究】 以下のような内容について、解析を行う予定である。1．質量分析法を用いたプロテオーム解析　２．次世代シーケンサー等を用いた遺伝子解析　３．質量分析法と遺伝子解析データを用いた生体分子の機能解明

区分	領域	主科目	担当教員 （◎研究指導教員）	授業の概要
A区分	細胞分子機能医学	ゲノム機能制御学	◎准教授　磯野　協一	【特別演習Ⅰ】 ゲノム制御に関連する教科書を参考に遺伝子発現制御の基礎を理解し、その解析のための方法論と原理をレクチャーする。 【特別演習Ⅱ】 ゲノム制御に関連する教科書や学術論文を精読する。論文に記載された研究の背景と問題提起、その問題を克服するための方法、そして結果と考察を論理的に発表説明することで研究の進め方を学ぶ。 【特別研究】 新規に作製した、あるいは作製するゲノム編集マウス及びその由来初代細胞や幹細胞を用いた細胞イメージングやゲノムワイド解析手法などを指導し、細胞の分化、増殖や老化を遺伝子及び分子レベルで解釈できるように指導する。また個体レベルでは器官形成やがん発症との関連性を調査する。細胞運命を制御する新しい分子メカニズムについての論文作成の指導を行う。
B区分	総合医療医学	精神医学	◎教授　紀本　創兵 ◎准教授　石田　卓也 ◎講師　岡村　和哉	【特別演習Ⅰ】 精神疾患の生物学的研究の最近の動向（紀本創兵） 主要な精神疾患の最新の臨床・基礎研究の論文について、各大学院生に批判的評価を課すとともに、教官の指導の下に相互で討議を行う。 【特別演習Ⅱ】 認知機能障害の理解と治療薬開発に向けた分子生物学的研究の動向と解析法（紀本創兵） 精神医学で行なわれている細胞生物学的な実験及び、脳神経画像の解析法の原理・評価方法について学び、最新の研究動向の理解を促す。 【特別研究】 精神医学の一次予防から三次予防についての理解を深め、それら見地に立った研究立案と実験について研究指導を行う。（紀本創兵） 予防精神医学の概念を念頭に研究を立案し、必要な実験や解析について研究指導を行う。得られた結果に基づき、論文作成の指導を行う。
		放射線医学	◎教授　土井　啓至 准教授　生駒　顕	【特別演習Ⅰ】 IVR についての論文を読み、討議する。 【特別演習Ⅱ】 スライドを用いて IVR についての講義を行う。 【特別研究】 新しい塞栓物質についての基礎的実験の方法を教授し、学会発表や論文作成の指導を行う。

区分	領域	主科目	担当教員 (◎研究指導教員)	授業の概要
B区分	総合医療医学	リハビリテーション医学	◎教授　幸田　剣 講師　坂野　元彦	【特別演習Ⅰ】 リハビリテーション医学に係る概説的な講義を行う。 【特別演習Ⅱ】 リハビリテーション医学に係る文献を読み、ディスカッションを行うなど、演習を実施する。 【特別研究】 リハビリテーション医学研究に関する指導を行う。
		救急・集中治療医学	◎教授　井上　茂亮 准教授　上田健太郎 ◎講師　宮本　恭兵	【特別演習Ⅰ】 心肺蘇生法の理論と実際及びその普及システムについて理解し考察を深める。ショックを含む重症病態についての理解と考察を深める。重症外傷傷病者・患者に対する診療ガイドラインを理解する。 【特別演習Ⅱ】 疾病・疾患の周囲の状況を救急の視点でみることができるように教育を行い、基礎研究や疫学研究の成果から導かれている標準化された医療の成り立ちを学ぶ。 【特別研究】 疾病・疾患の周囲の状況を救急の視点で把握し、既存の基礎研究や疫学研究との関わりについて現状の課題を抽出し、課題解決に向けた研究指導を行う。
		麻酔科学	◎教授　川股　知之 准教授　時永　泰行 ◎准教授　神田　浩嗣	【特別演習Ⅰ】 周術期医療について文献を読み、教員と議論することにより知識を深める。また、基礎・臨床研究の手法について学び、研究技能の向上を目指すとともに、臨床知識・技術を修得する。 【特別演習Ⅱ】 周術期医療について最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解する。またディスカッションを行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。 【特別研究】 周術期医療分野において博士論文作成の指導を行う。データの収集・解析や実験を遂行する。また、研究成果を発信して社会貢献できる高度な研究能力を身につけるとともに、臨床技能の向上を図る。

区分	領域	主科目	担当教員 （◎研究指導教員）	授業の概要
B区分	総合医療医学	総合診療学	◎教授　　廣西　昌也	【特別演習Ⅰ】 地域医療・家庭医療における研究手法：在宅医療など地域医療現場における問題抽出と研究法について学ぶ。 【特別演習Ⅱ】 インテグラル理論・BPS モデルを用いた問題分析：地域医療現場において抽出された課題について、インテグラル理論や BPS モデルに基づいた分析・議論を行う。 【特別研究】 生理学的なストレス解析を通じて、高齢者、認知症者、介護者の well-being に関する研究指導を行う。
		総合医療学	◎教授　　村田　顕也 （令和９年３月退職予定） ◎准教授　谷本　貴志 講師　　佐々木洋子	【特別演習Ⅰ】 神経系・循環器系疾患を有する患者、ADHD などの発達障害を有する障害者のライフステージに応じた全人的な医療を行うのに必要な臨床医学的、基礎医学的、社会学的な知識や技能に関する講義を行う。 神経系疾患に関する内容について講義する。（村田顕也） 循環器系疾患に関する内容について講義する。（谷本貴志） 医療社会学に関する内容について講義する。（佐々木洋子） 【特別演習Ⅱ】 神経筋疾患・循環器系疾患を有する患者、ADHD などの発達障害を有する障害者のライフステージに応じた全人的な医療を行うのに必要な臨床医学的、基礎医学的、社会学的な側面についてディスカッションし、研究方法を学ぶ。 神経系疾患に関する演習を担当する。（村田顕也） 循環器系疾患に関する演習を担当する。(谷本貴志) 医療社会学に関する演習を担当する。(佐々木洋子) 【特別研究】 神経難病･循環器系疾患を有する患者、ADHD などの発達障害を有する障害者のライフステージに応じた全人的な医療を行うのに必要な臨床医学的、基礎医学的、社会学的な課題について研究指導を行う。

区分	領域	主科目	担当教員 （◎研究指導教員）	授業の概要
B区分	総合医療医学	緩和医療学／緩和医療専門医養成コース	◎教授　川股　知之 ◎講師　栗山　俊之	【特別演習Ⅰ】 緩和医療について文献を読み、教員と議論することにより知識を深める。また、臨床研究の手法について学び、研究技能の向上を目指すとともに、臨床知識・技術を修得する。 【特別演習Ⅱ】 緩和医療について最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解する。またディスカッションを行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。 【特別研究】 緩和医療分野において博士論文作成の指導を行う。計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。また、研究成果を発信して社会貢献できる高度な研究能力を身につけるとともに、臨床技能の向上を図る。
		地域医療学	◎教授　蒸野　寿紀	【特別演習Ⅰ】 地域医療に関する実例、重要文献や国や自治体の資料をもとに課題を整理し、関心に沿った研究テーマを設定する演習を行う。 【特別演習Ⅱ】 先行研究に基づき、設定した研究テーマとの関連性を調査し、未解決の課題を明らかにし、研究手法を選択する演習を行う。 【特別研究】 収集したデータに基づき、学会発表・英語論文作成の指導を行う。
	器官病態内科学	糖尿病・内分泌代謝内科学	◎教授　松岡　孝昭 准教授　森田　修平	【特別演習Ⅰ】 糖尿病に関する概説的な講義を行う。また糖尿病発症メカニズムに関する最新の文献を読み、教員と議論を行うことにより、糖尿病に関する理解を深める。 【特別演習Ⅱ】 糖尿病発症に関わる分子メカニズムを理解するための in vivo/in vitro 研究手法の修得及び新知見の探求を行い、新規治療法の開発を目指す。 【特別研究】 膵β細胞機能の獲得に必須の因子を同定するとともに、膵β細胞の再生を目指した in vivo 研究を実施し、臨床応用の可能性を探る。
		消化器内科学	◎教授　北野　雅之 ◎准教授　井口　幹崇 ◎准教授　蘆田　玲子 ◎講師　井田　良幸 ◎講師　山下　泰伸	【特別演習Ⅰ】 ①消化器内視鏡による診断と治療、②超音波による診断と治療、③消化器疾患に対する薬物治療：消化器疾患診療に関する概説的な講義を行う。また最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を

区分	領域	主科目	担当教員 （◎研究指導教員）	授業の概要
B区分	器官病態内科学	消化器内科学	◎講師　糸永　昌弘 ◎講師　田村　崇	行うことにより、消化器病学に関する理解を深める。超音波・消化器内視鏡を用いた最先端の診断・治療について学び、その理解を深める。 【特別演習Ⅱ】 ①消化器癌の発癌機構とバイオマーカー、②消化器疾患におけるゲノム医療：消化器癌の発癌機構に関する概説的な講義を行い、基本的な実験手法の指導を行う。消化器癌のゲノム医療について学び、その理解を深める。 【特別研究】 消化器疾患の病態生理解明について研究及び論文作成の指導を行う。消化器疾患診療に関連する診断・治療機器開発について研究及び論文作成の指導を行う。消化器疾患診療に関する臨床研究の研究及び論文作成の指導を行う。
		呼吸器内科学	◎教授　山本　信之 （令和９年３月退職予定） 准教授　中西　正典 ◎准教授　洪　泰浩 講師　早田　敦志 ◎講師　泉　源浩	【特別演習Ⅰ】 呼吸器疾患診療における最近の動向：呼吸器疾患に関する概説的な講義を行う。また最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、呼吸器疾患に関する理解を深める。 【特別演習Ⅱ】 呼吸器疾患研究における最近の動向：呼吸器疾患に関する最新のデータを理解し解決すべき課題を発見する。臨床研究・基礎研究の手法について学ぶ。 【特別研究】 呼吸器疾患に関する臨床研究、基礎研究について研究指導を行う。
		循環器内科学	◎教授　田中　篤 ◎准教授　谷本　貴志 准教授　北端　宏規 講師　黒井　章央 ◎講師　塩野　泰紹 講師　山野　貴司 ◎講師　柏木　学 講師　尾﨑　雄一 講師　太田　慎吾 助教　樽谷　玲	【特別演習Ⅰ】 循環器内科学における、最新の画像診断法・生理学的診断法：循環器疾患に関する、生体内イメージングを用いた形態学的診断法、圧・流速ワイヤーを用いた生理学的診断法、ＣＴ／ＭＲＩを用いた非侵襲的画像診断法の基礎知識を概説し、それらの理解を深める。 【特別演習Ⅱ】 循環器内科学における、最新の画像診断法・生理学的診断法の実践的演習：循環器疾患に関する生体内イメージングを用い形態学的診断法、圧・流速ワイヤーを用いた生理学的診断法、ＣＴ／ＭＲＩを用いた非侵襲的画像診断法の最新の研究手法及び成果を学び、それらを用いた臨床課題の解決能力を涵養する。 【特別研究】 循環器内科学における最新の光干渉断層法に関する技術の開発及びそれを用いた研究を行い論文作成する。

区分	領域	主科目	担当教員 (◎研究指導教員)	授業の概要
B区分	器官病態内科学	腎臓・体内環境調節内科学	◎教授　荒木　信一 助教　中島　悠里	【特別演習Ⅰ】 慢性腎不全による体内環境調節機構の破綻と病態:腎臓による体内環境調整機構とその理論的背景の基礎となる文献を抄読し議論を行うことで、慢性腎不全・透析医療における基本的な基礎・臨床研究の手法を修得する。 【特別演習Ⅱ】 慢性腎臓病研究の最新の動向と研究方法:慢性腎臓病・透析医療における最新の論文を抄読・議論することで、最近の研究動向及び新たな研究手法を学ぶとともに、結果の解釈法・発表方法について修得する。 【特別研究】 慢性腎臓病の克服に向けた新たな治療戦略を探索していくための研究を指導する。
		血液内科学	◎教授　園木　孝志 ◎教授　蒸野　寿紀 ◎准教授　村田　祥吾 ◎准教授　細井　裕樹 ◎助教　小浴　秀樹	【特別演習Ⅰ】 ①造血器疾患におけるゲノム異常の解析法とその解釈（園木孝志）、②造血器疾患における免疫病態の解析法とその解釈（村田祥吾／蒸野寿紀）、③臨床データの統計学的解析法とその解釈（細井裕樹）:造血器疾患のゲノム異常と免疫病態を研究する基本的な解析法を取得し臨床データを扱う統計手法を学ぶ。研究テーマに即した文献を抄読会で発表し、論文を多角的な視点で吟味することを学ぶ。研究成果を論理的に構築し発表することを学ぶ。 【特別演習Ⅱ】 ①造血幹細胞の特徴と臨床応用（園木孝志）、②免疫不全下における感染症の診断と制御（園木孝志／村田祥吾／蒸野寿紀）、③移植片宿主病と移植片腫瘍効果の制御（園木孝志／細井裕樹）:同種造血幹細胞移植における免疫病態を解析する手法とその解釈法を取得する。同種造血幹細胞移植成績を向上させるための課題を抽出し、その解決法を考察する。 【特別研究】 造血器疾患におけるゲノム異常解析・免疫病態解析の臨床応用について指導する。
		脳神経内科学	◎教授　宮本　勝一 ◎講師　中山　宜昭	【特別演習Ⅰ】 ①神経変性疾患研究の最新の動向、②神経変性疾患の神経病理学的・分子生物学的解析手法:アルツハイマー病・パーキンソン病・ALSなど難治性神経変性疾患に関する概説的な講義を行う。また最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、神経変性疾患の病態に関する理解を深める。

区分	領域	主科目	担当教員 (◎研究指導教員)	授業の概要
B区分	器官病態内科学	脳神経内科学		【特別演習Ⅱ】 ①神経免疫疾患研究の最新の動向、②神経免疫疾患の神経化学的・分子生物学的解析手法：多発性硬化症・ギランバレー症候群・重症筋無力症など難治性神経免疫疾患に関する概説的な講義を行う。また最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、神経免疫疾患の病態に関する理解を深める。 【特別研究】 ①難治性神経疾患の病態解明、②難治性神経疾患のバイオマーカー探索と革新的治療法確立：神経病理学・分子生物学・神経化学等における最新の研究手法を用い、難治性神経疾患の病態解明とバイオマーカーの開発、さらに革新的治療法の確立に係る研究指導を行う。
		リウマチ・膠原病科学	◎教授　藤井　隆夫 准教授　岩田　慈	【特別演習Ⅰ】 全身性自己免疫疾患（関節リウマチや全身性エリテマトーデス）の歴史、診断・治療法の変遷に触れ、最新の臨床研究・免疫学的研究を概説する。その上で課題の抽出を行えるよう授業を行う。なお関節リウマチについては主として藤井が、その他の膠原病については岩田が担当する。 【特別演習Ⅱ】 全身性エリテマトーデス（岩田が担当）や関節リウマチ（藤井が担当）などの全身性自己免疫疾患における抗核抗体や自己抗体検査が、その疾患の診断や活動性の評価、予後予測にいかに重要であるのか解説する。またその測定法と結果の解釈に関する問題点も示す。 【特別研究】 当教室で行っている自己抗体・抗核抗体の検査法を示し、当科のコホートにおける研究成績とともに提示する。また他の研究者のデータを考察し、自己抗体研究の論文作成の指導を行う。
		発達小児医学	◎教授　徳原　大介 ◎准教授　島　友子 ◎准教授　田村　彰 ◎講師　末永　智浩 ◎講師　垣本　信幸 ◎講師　利光　充彦 ◎講師　辻本　弘	【特別演習Ⅰ】 新生児・小児疾患の原因と成立機序の理解と課題に対する研究立案：発達・成熟の過程で生じる新生児・小児特有の疾患（特に、肝臓・消化管、腎臓、神経・こころ、循環器、感染症・免疫、呼吸器、代謝、血液に関する）について、その発生の原因、成立機序について概説的な講義を行う。また、最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うこ

区分	領域	主科目	担当教員 （◎研究指導教員）	授業の概要
B区分	器官病態内科学	発達小児医学		とにより各疾患の理解を深めるとともに解決・解明すべき課題を認識し、それら課題を解決あるいは明らかにするために必要な臨床・基礎研究の計画・立案を行う。 【特別演習Ⅱ】 新生児・小児疾患の原因と成立機序の理解と、課題に対する研究技術修得：発達・成熟の過程で生じる新生児・小児特有の病的状態に関して、形態学的、機能的な観点から講義を行うとともに、生化学的、生理学的、組織学的な手法を用いて解説する。また、発達・成熟の過程で生じる特有の病的状態に関して最新の文献の抄読と討論を行い、疾患の原因、成立機序について理解を深める。さらに、解決・解明すべき課題を認識し、それら課題を解決あるいは明らかにするために必要な臨床・基礎研究の計画・立案を行い、研究に必要な生化学的、生理学的、組織学的実験技術を修得する。 【特別研究】 新生児・小児疾患の課題に対する臨床・基礎研究の実践と結果の解析・考察：発達・成熟の過程で生じる新生児・小児特有の疾患・病的状態（特に、肝臓・消化管、腎臓、神経・こころ、循環器、感染症・免疫、呼吸器、代謝、血液に関する）に関して、解決・解明すべき課題を取り上げ、それら課題を解決あるいは明らかにするために必要な研究手法を修得する。また臨床・基礎研究の計画・立案を行い、研究指導者の指導のもと研究を遂行し、得られたデータの適切な解析・解釈並びに考察を行い、論文化する。
		腫瘍内科学／がん薬物療法専門医養成コース	◎教授　山本　信之 （令和９年３月退職予定） ◎准教授　洪　泰浩 ◎講師　泉　源浩 ◎助教　小浴　秀樹	【特別演習Ⅰ】 がん薬物療法診療における最近の動向：腫瘍内科に関する概説的な講義を行う。また最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、がん薬物療法に関する理解を深める。 【特別演習Ⅱ】 がん薬物療法研究における最近の動向：がんに関する最新のデータを理解し解決すべき課題を発見する。臨床研究・基礎研究の手法について学ぶ。 【特別研究】 がん薬物療法に関する臨床研究、基礎研究について研究指導を行う。

区分	領域	主科目	担当教員 （◎研究指導教員）	授業の概要
B区分	器官病態外科学	胸部外科学	◎教授　西村　好晴 （令和９年３月退職予定） ◎准教授　本田賢太朗 ◎准教授　平井　慶充 ◎講師　上松　耕太 ◎講師　宮坂美和子	【特別演習Ⅰ】 胸部大動脈瘤における脳保護法、冠動脈バイパス術におけるグラフト評価法の最近の動向を解説する。（西村好晴／本田賢太朗／上松耕太） 近年進歩が著しい呼吸器外科の低侵襲アプローチについての講義を行い、文献的考察を通して、臨床研究に関する議論を行う。（平井慶充） 乳癌診療における臨床上の問題点を通じて、臨床研究に関する議論を行う。（宮坂美和子） 【特別演習Ⅱ】 胸部大動脈瘤の脳保護法、冠動脈バイパス術のグラフト評価法の臨床データの解析と文献的考察による検討を行う。（西村好晴／本田賢太朗／上松耕太） 近年進歩が著しい呼吸器外科の低侵襲アプローチについての講義を行い、文献的考察を通して、研究結果をまとめる。（平井慶充） 乳癌診療における臨床上の問題点を通じて、研究結果をまとめる。（宮坂美和子） 【特別研究】 冠動脈バイパス術、胸部大動脈瘤、大動脈解離に対する低侵襲治療を含めた手術手技を修得し、手術成績と問題点を解析することにより論文を作成する。（西村好晴／本田賢太朗／上松耕太） 肺癌を中心とした呼吸器外科の低侵襲アプローチの臨床上の課題を明らかにし、課題解決にむけた研究を実践する。（平井慶充） 乳癌診療における臨床上の課題を明らかにし、課題解決にむけた研究を実践する。（宮坂美和子）
		消化器外科学	◎教授　川井　学 ◎准教授　松田　健司 ◎講師　速水　晋也 ◎講師　早田　啓治 ◎講師　三谷　泰之	【特別演習Ⅰ】 消化器癌に対する癌の浸潤・転移に関する分子生物学的アプローチの方法に関する研究について、研究手法などの演習を行う。（川井　学／松田健司） リキッドバイオプシーを用いた消化器癌の予後予測因子に関するバイオマーカーの開発に関する研究について、研究手法などの演習を行う。（三谷泰之） 腫瘍特異的免疫療法(特にワクチン療法、樹状細胞療法)に関する研究について、研究手法などの演習を行う。（速水晋也／早田啓治） 【特別演習Ⅱ】 消化器癌に対する癌の浸潤・転移に関する分子生物学的アプローチの方法に関する研究について、最近の研究動向や研究結果の解釈法などの演習を行う。（川井　学／松田健司) リキッドバイオプシーを用いた消化器癌の予後予測因子に関するバイオマーカーの開発に関する研

区分	領域	主科目	担当教員 （◎研究指導教員）	授業の概要
B区分	器官病態外科学	消化器外科学		究について、最近の研究動向や研究結果の解釈法などの演習を行う。（三谷泰之） 腫瘍特異的免疫療法(特にワクチン療法、樹状細胞療法)に関する研究について、最近の研究動向や研究結果の解釈法などの演習を行う。（速水晋也／早田啓治） 【特別研究】 消化器癌に対する癌の浸潤・転移に関する分子生物学的アプローチの方法に関する研究について、博士論文作成に向けた研究指導を行う。（川井　学／松田健司) リキッドバイオプシーを用いた消化器癌の予後予測因子に関するバイオマーカーの開発に関する研究について、博士論文作成に向けた研究指導を行う。（三谷泰之） 腫瘍特異的免疫療法(特にワクチン療法、樹状細胞療法)に関する研究について、博士論文作成に向けた研究指導を行う。（速水晋也／早田啓治）
		脳神経外科学	◎教授　　中尾　直之 （令和９年３月退職予定） ◎准教授　深井　順也 講師　　中井　康雄 ◎講師　　佐々木貴浩	【特別演習Ⅰ】 脳神経外科における主要テーマである脳卒中や脳腫瘍の病態、予防、治療について講義を行う。 【特別演習Ⅱ】 脳卒中や脳腫瘍に関する最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解し、臨床データや動物実験結果についてディスカッションを行うことにより、研究結果の解釈法や発表方法についての指導を行う。 【特別研究】 脳腫瘍又は脳血管障害の病態解明や治療法に関する研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行できるように指導を行う。
		整形外科学	◎教授　　山田　　宏 講師　　長田　圭司 ◎講師　　石元　優々 講師　　西山　大介 講師　　福井　大輔 ◎講師　　下江　隆司 ◎講師　　寺口　真年	【特別演習Ⅰ】 運動器の構造と機能に関する概説的な講義を行う。また最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、運動器に関する理解を深める。 1. 運動器総論：加齢と運動機能（山田　宏） 2. 頸椎の構造と機能（長田圭司） 3. 腰椎の構造と機能（石元優々） 4. 股関節・足関節の構造と機能（西山大介） 5. 膝関節の構造と機能（福井大輔） 6. 上肢の構造と機能（下江隆司） 【特別演習Ⅱ】 運動器疾患に関する評価、分析を行う。また、臨床研究における倫理的な配慮について指導する。 1. 運動器疾患の臨床研究の手法と倫理（山田　宏）

区分	領域	主科目	担当教員 (◎研究指導教員)	授業の概要
B区分	器官病態外科学	整形外科学		2. 頸椎疾患の病態と評価・治療法（長田圭司） 3. 腰椎疾患の病態と評価・治療法（石元優々） 4. 股関節・足関節疾患の病態と評価・治療法（西山大介） 5. 膝関節疾患の病態と評価・治療法（福井大輔） 6. 上肢の疾患の病態と評価・治療法（下江隆司） 【特別研究】 運動器疾患の病態解明と診断・治療法の開発に係る研究の手法について解説し、実際に研究を行うことで技術を修得させるとともに、博士論文作成に向けた研究指導を行う。 1. 運動器疾患の研究における最近の動向（山田宏） 2. 頸椎疾患の研究における解析手法（長田圭司） 3. 腰椎疾患の研究における解析手法（石元優々） 4. 股関節・足関節疾患の研究における解析手法（西山大介） 5. 膝関節疾患の研究における解析手法（福井大輔） 6. 上肢の疾患の研究における解析手法（下江隆司）
		形成外科学	◎教授　朝村　真一	【特別演習Ⅰ】 創傷治癒のメカニズムの理解は、基礎研究において重要である。外科学の基本である創傷治癒のメカニズム及び創傷の管理について演習を行う。 【特別演習Ⅱ】 創傷治癒の理解は、外科学の基本だけでなく基礎研究においても重要である。そのメカニズム及び創傷管理の理解が手術手技の向上につながることを教育する。 【特別研究】 形成外科領域において、不治の病とされるリンパ浮腫の予防と治療は重要事項である。動物モデルを用いて、リンパ浮腫の発症機序の解明及び創薬の開発を目指した研究指導を行う。
		泌尿器科学	◎教授　柑本　康夫 ◎准教授　山下　真平	【特別演習Ⅰ】 泌尿器科領域に関する論文を読み、内容についてディスカッションする。 【特別演習Ⅱ】 泌尿器科領域に関する論文を読み、内容についてディスカッションする。研究テーマに沿った研究を行い、結果につき議論を行う。論文作成のために必要なことに関しステップ毎にディスカッションを行う。 【特別研究】 泌尿器科悪性腫瘍領域や尿路結石に関する実験を行い、データの収集・解析を行う。

区分	領域	主科目	担当教員 （◎研究指導教員）	授業の概要
B区分	器官病態外科学	生殖病態医学	◎教授　井箆　一彦 ◎准教授　南　佐和子 （令和９年３月退職予定） ◎准教授　馬淵　泰士	【特別演習Ⅰ】 生殖病態医学に関する概説的な講義を行う。また最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、生殖病態医学に関する理解を深める。 【特別演習Ⅱ】 生殖病態医学に関する最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、生殖病態医学に関する研究課題を見つけ研究方法について学ぶ。 【特別研究】 妊娠高血圧症候群及び婦人科腫瘍の病態解明と新たな診断・治療法の開発に係る研究の指導を行う。
		視覚病態眼科学	◎教授　雑賀司珠也 ◎教授　岡田　由香 准教授　住岡　孝吉 准教授　小門　正英 准教授　田中　才一	【特別演習Ⅰ】 眼組織の感染症や外傷後の生体反応などに関する発表論文献を読み、教員と議論する。眼の生体反応に関するマウスを用いた基礎研究の手法について指導する。基礎研究に関連した臨床病態を科学的に解析するための臨床研究立案と実施のノウハウを指導する。 【特別演習Ⅱ】 感染症や外傷後の生体反応などに関する general 領域の発表論文を読み、教員と議論することにより知識を深める。論文に掲載されている眼組織生体反応に関する基礎研究、臨床研究の結果解析から、次なる課題に発展させる能力を修得する。 【特別研究】 眼組織の創傷治癒に関する基礎研究又は臨床研究計画の立案を行い、計画に沿って研究及びデータの解析を遂行する。それを元に博士論文作成の指導を行う。日々の臨床活動での課題解決に向け、自身の研究成果を発信して社会貢献する重要性を説く。これらを通して高度な研究能力を身につけると同時に眼組織創傷治癒に関する臨床技能の向上を図る。
		耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	◎教授　保富　宗城 准教授　玉川　俊次 准教授　河野　正充	【特別演習Ⅰ】 １．聴覚、平衡覚（河野正充）、嗅覚・味覚（保富宗城） 聴覚、平衡覚の機序、人工内耳など聴覚研究の最新情報と聴覚評価法、嗅覚・味覚の機序、嗅覚障害動物モデルの作成と嗅覚行動検査法について解説する。 ２．嚥下機能（玉川俊次） 嚥下機序の解説と評価法、嚥下障害の評価法と嚥下改善手術について解説する。 ３．頭頸部癌・甲状腺癌（玉川俊次） 頭頸部癌におけるパピローマウイルス・EB ウイル

区分	領域	主科目	担当教員 （◎研究指導教員）	授業の概要
B区分	器官病態外科学	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学		スによる発癌機序、頭頸部癌の転移機序、甲状腺癌における遺伝子変異について解説する。 ４．耳鼻咽喉科頭頸部外科領域感染症（保富宗城） 耳鼻咽喉科頭頸部外科領域感染症の原因微生物、動物感染モデルの作成について解説する。小児急性中耳炎の難治化機序、解析法について解説する。また耳鼻咽喉科頭頸部外科領域感染症に対する抗菌薬適正使用について解説する。 【特別演習Ⅱ】 １．聴覚、平衡覚（河野正充）、嗅覚・味覚（保富宗城） 人工内耳による聴覚の変化と感覚器研究の最新の研究動向、平衡覚について重心動揺計を用いた解析法と最新の研究動向、嗅覚障害動物モデルによる嗅覚行動検査と嗅覚再生についての最新の研究動向について解説する。 ２．嚥下機能（玉川俊次） 嚥下障害の病態と評価法、嚥下改善手術の最新の動向について解説する。 ３．頭頸部癌・甲状腺癌（玉川俊次） 頭頸部癌における HPV・EBV による発癌機序研究、頭頸部癌転移における上皮間葉移行、甲状腺癌における遺伝子変異に関する最新の研究動向を解説する。 ４．耳鼻咽喉科頭頸部外科領域感染症（保富宗城） 耳鼻咽喉科感染症の難治化と重症化に関する最新の研究動向を解説する。また、耳鼻咽喉科頭頸部外科領域感染症に対する抗菌薬適正使用について解説する。 【特別研究】 １．病原微生物の保菌・感染・伝播における宿主細菌相互作用についての研究指導及び論文作成指導を行う。（河野正充） ２．嗅覚障害の再生における感覚免疫機序についての研究指導及び論文作成指導を行う。（保富宗城） ３．扁桃病巣感染症における細菌叢と単一細胞解析についての研究指導及び論文作成指導を行う。（保富宗城） ４．頭頸部癌・甲状腺癌における癌幹細胞の同定と解析についての研究指導及び論文作成指導を行う。（玉川俊次）
		皮膚病態学	◎教授　神人　正寿 ◎准教授　山本　有紀	【特別演習Ⅰ】 皮膚疾患の病態、診断、治療についての最新の知見について考察し、理解を深める。 【特別演習Ⅱ】

区分	領域	主科目	担当教員 （◎研究指導教員）	授業の概要
B区分	器官病態外科学	皮膚病態学		皮膚疾患の病態、診断、治療についての最新の知見について考察し、理解を深める。 【特別研究】 膠原病・自己炎症・アレルギー疾患、皮膚腫瘍、美容皮膚科に関する研究指導を行う。
		口腔顎顔面外科学	◎教授　松村　達志 ◎助教　田坂ゆかり	【特別演習Ⅰ】 代表的な歯科口腔外科疾患について解説する。 【特別演習Ⅱ】 歯科口腔外科疾患の臨床的な問題点の抽出及び研究デザインについて解説する。 【特別研究】 歯科口腔外科疾患に関する基礎的研究及び新規治療法の開発、応用につながる研究について指導を行う。
C区分	物理・化学薬学	薬品物理化学	◎教授　中津　亨 准教授　入江　克雅	【特別演習Ⅰ】 生体高分子の機能解明に必要な構造生物学的研究の討論と解説を行う。 【特別演習Ⅱ】 生体高分子の構造生物学的研究及びその構造解析研究手法に関する討論と解説を行う。 【特別研究】 生体高分子メカニズムの構造基盤解明及び構造生物学的解析法の高度化に関する研究を指導する。
		薬品化学	◎教授　相馬　洋平 助教　澤﨑　鷹	【特別演習Ⅰ】 有機化学を利用した生体分子（主にペプチド・タンパク質）の変換手法の創出に関して議論を行う。 【特別演習Ⅱ】 生体分子（主にペプチド・タンパク質）の化学変換を基盤とした革新的な医薬分子や創薬手法の創出に関して議論を行う。 【特別研究】 生体分子（主にペプチド・タンパク質）の化学変換を基盤とした革新的な医薬分子や創薬手法の創出に関する研究を行う。
		生薬・天然物化学	◎教授　田村　理 准教授　田中　千晶	【特別演習Ⅰ】 研究テーマに関する著書や論文を読み、専門的知識及び研究手法を理解し、天然有機化合物を扱うための技術を学ぶ。また、医薬品の礎となった天然有機化合物の基原、化学構造、生物活性メカニズム及びその解析について理解し、その応用を修得する。 【特別演習Ⅱ】 研究テーマに関する文献を読み、天然有機化合物に関する専門的知識や研究手法を理解するとともに、プレゼンテーションスキルを修得する。また、生物活性を有する天然有機化合物を医薬品へと展開し

区分	領域	主科目	担当教員 （◎研究指導教員）	授業の概要
C区分	物理・化学薬学	生薬・天然物化学		ていく上で必要となる条件やその展開プロセスについて考察する力を養成する。 【特別研究】 医薬品として用いられる天然有機化合物の基原、構造及び構造解析、作用などに関する研究を行う。また、活性評価系を構築し生物活性天然物を探索した上で、見出した活性天然物を医薬リードへと展開する研究及び活性天然物を利用して未知の生命現象を解明する研究を指導する。
	生命薬学	病態解析学	教授　長野　一也 ◎准教授　山下　琢矢 ◎助教　堤　崚太郎	【特別演習Ⅰ】 体内動態を基盤とした未病/疾患の総合的理解と問題解決能力の育成を目指す。 【特別演習Ⅱ】 体内動態を基盤とした未病/疾患の介入/制御と問題解決能力の育成を目指す。 【特別研究】 体内動態を基盤とした未病・疾患の理解と制御に関する研究を指導する。
		生物化学	◎教授　長田　茂宏	【特別演習Ⅰ】 遺伝子発現調節、再生・がん化、毒性評価に関する理解の統合と課題発見・解決能力の育成を目指す。 【特別演習Ⅱ】 遺伝子発現調節、再生・がん化、毒性評価に関する理解の統合と課題発見・解決能力の育成を目指す。 【特別研究】 遺伝子発現調節、再生・がん化、毒性評価に関する研究を指導する。
		分子生物薬学	◎教授　三宅　歩	【特別演習Ⅰ】 形態形成の分子機構に関する最近の研究の紹介及びそれに基づく討論と解説を行う。 【特別演習Ⅱ】 摂食行動、病態代謝の分子機構に関する最近の研究の紹介及びそれに基づく討論と解説を行う。 【特別研究】 下記の研究を指導する。 1.摂食行動の制御機構に関する研究 2.病態代謝の分子機構に関する研究 3.形態形成の分子機構に関する研究
		生体機能解析学	教授　那波　宏之 （令和９年３月退職予定） ◎准教授　木口　倫一 ◎講師　難波　寿明	【特別演習Ⅰ】 中枢神経系の機能異常に基づく慢性疾患の原因機序と病態生理に関する講義、文献から得られる情報に基づく議論を行う。 【特別演習Ⅱ】 中枢神経系の機能異常に基づく慢性疾患に対する神経薬理学及びその治療戦略に関する講義、文献か

区分	領域	主科目	担当教員 (◎研究指導教員)	授業の概要
C区分	生命薬学	生体機能解析学		ら得られる情報に基づく議論を行う。 【特別研究】 中枢神経系の機能異常に基づく慢性疾患の分子基盤解明に関する研究を指導する。
		衛生薬学	教授　佐能　正剛	【特別演習Ⅰ】 代謝酵素の発現調節機構や生理機能、疾患や副作用との関連性に関する知見に基づく議論を行う。 【特別演習Ⅱ】 代謝酵素の発現調節機構や生理機能、疾患や副作用との関連性に関する知見に基づく議論を行う。 【特別研究】 代謝酵素の発現調節機構や生理機能、疾患や副作用との関連性に関する研究を指導する。
D区分	医療薬学	病態生理学	◎教授　佐藤慎太郎 講師　中村　有孝 助教　民谷　繁幸	【特別演習Ⅰ】 週1回程度の文献抄読会、データ検討会を行う。 【特別演習Ⅱ】 週1回程度の文献抄読会、データ検討会を行う。 【特別研究】 粘膜免疫、感染症免疫に関係する研究を行う。
		薬品作用学	◎教授　新谷　紀人 講師　岩田　圭子 助教　野口　雅史	【特別演習Ⅰ】 週1回程度の文献抄読会、データ検討会を行う。 【特別演習Ⅱ】 週1回程度の文献抄読会、データ検討会を行う。 【特別研究】 脳やミトコンドリアをひとつの切り口とした基礎研究･応用研究を行う。研究内容に応じて実験手技、情報やデータの収集法、データ処理法、論文の執筆を指導する。
		薬物治療学	◎教授　岩倉　浩	【特別演習Ⅰ】 週1回程度の文献抄読会、データ検討会を行う。 【特別演習Ⅱ】 週1回程度の文献抄読会、データ検討会を行う。 【特別研究】 研究内容に応じて教員が実験手技、データ収集法、データ処理法等について指導する。
		薬剤学	教授　門田　和紀 ◎准教授　福田　達也 ◎助教　池田真由美	【特別演習Ⅰ】 週1回程度の文献抄読会、データ検討会を行う。 【特別演習Ⅱ】 週1回程度の文献抄読会、データ検討会を行う。 【特別研究】 固形製剤、ナノ粒子製剤などを切り口として、基礎研究を行う。テーマに応じて教員が実験手技、データ収集法、データ処理法等について指導する。

区分	領域	主科目	担当教員 （◎研究指導教員）	授業の概要
D区分	臨床・社会薬学	病院薬学	◎教授　中川　貴之 准教授　松本みさき 助教　抱　将史	【特別演習Ⅰ】 医療薬学、臨床薬理学等の病院薬学に関する概説的な講義を行う。また病院薬学に関する最新の文献を読み、内容を整理・考察し、発表する機会を設け、教員と議論を行う。 【特別演習Ⅱ】 医療薬学、臨床薬理学等の病院薬学及び関連領域に関する概説的な講義を行う。またそれらに関する最新の文献を読み、内容を整理・考察し、発表する機会を設け、教員と議論を行う。 【特別研究】 病院診療記録や医療ビッグデータ等から得られた様々な臨床課題をもとに実験系を構築し、解決策や治療標的・予防/治療候補薬の探索、開発等の基礎研究を行い、その成果を臨床に還元するリバース・トランスレーショナルリサーチを行う。
		医療薬剤学	◎教授　江頭　伸昭	【特別演習Ⅰ】 医療薬剤学の研究報告会を行う。パワーポイント等によるプレゼンテーション形式で発表し、質疑討論を行う。 【特別演習Ⅱ】 医療薬剤学の研究報告会を行う。パワーポイント等によるプレゼンテーション形式で発表し、質疑討論を行う。 【特別研究】 教員が指導し、学生各自の研究内容について特別研究を行う。
		医療情報薬学	◎教授　伊藤　達也 ◎講師　阿部　寛康	【特別演習Ⅰ】 医薬品や再生医療等製品の開発に必要なレギュレーションや規制当局の審査プロセスを学び、薬剤師としての医薬品情報処理能力の深化やレギュラトリーサイエンスの能力を修得するよう指導する。 【特別演習Ⅱ】 医療機関や薬局における医薬品を含む医療情報を学び、薬剤師として医薬品の適正使用に関する医薬品情報処理能力を修得するよう指導する。 【特別研究】 医療開発におけるレギュラトリーサイエンスに関する研究指導を行う。

区分	領域	主科目	担当教員 （◎研究指導教員）	授業の概要
D区分	臨床・社会薬学	医療開発薬学	◎教授　今井　哲司 准教授　山下　哲	【特別演習Ⅰ】 慢性疼痛や睡眠障害の神経科学的な発症機序について講義を行う。また、最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより最新知見に関する理解を深める。 【特別演習Ⅱ】 慢性疼痛や睡眠障害を中心とする神経疾患の現状やアンメットメディカルニーズについて講義を行う。また、そうした臨床課題やクリニカルクエッションを抽出し、リサーチクエッションに変換して研究を推進するための視点や手法について、セミナーや学会参加、教員との議論を通して修得する。 【特別研究】 末梢神経障害や睡眠障害を中心とした神経疾患の発症機序解明を目的とした研究指導を行う。また、リバーストランスレーショナルリサーチの実践を通して、科学的根拠に基づき臨床的課題の解決策を提言できる高度医療人材の養成を目指した指導を行う。
		腫瘍薬物療法学	◎教授　須野　学	【特別演習Ⅰ】 がん化学療法の個別化について、病態及び薬力学・薬物動態学的観点に基づいて理解を深める。 【特別演習Ⅱ】 がん化学療法における効果、特に副作用のマネジメントについて理解を深める。 【特別研究】 薬物動態に影響を及ぼす因子として、薬物代謝関連酵素遺伝子及び病態について最新の知見を紹介する。
		高度がん医療人育成学／がん薬剤師養成コース	◎教授　今井　哲司 准教授　山下　哲	【特別演習Ⅰ】 がん薬物療法及び支持療法の新規戦略や治療シーズ創出、育薬を目指す基礎／臨床研究について調査を行う。また、その内容について考察した結果を発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、最新のがん薬物療法、問題点、それらの応用方法についての理解を深める。 【特別演習Ⅱ】 最新のがん研究における新規モダリティやトランスレーショナルリサーチの知見について調査を行う。また、その内容について考察し、まとめた結果を発表する機会を設け、教員と議論を行う。 【特別研究】 臨床で問題となっているがん薬物療法についてのアンメット・メディカル・ニーズ及びクリニカルクエッションを調査し、その解決のための実験系の構築・メカニズム探索を行う。

令和９年度（２次募集）

和歌山県立医科大学大学院医学薬学総合研究科
生命医療学専攻（博士課程）入学願書

令和　　年　　月　　日

和歌山県立医科大学長　様

ふりがな
氏　名

貴学大学院医学薬学総合研究科に入学したいので、所定の書類を添えて出願いたします。

<table>
<tr><td>現　住　所
連　絡　先</td><td colspan="6">〒　　－
TEL（　　）　　－</td></tr>
<tr><td>生　年　月　日</td><td colspan="3">年　　月　　日生</td><td>性　別</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>本　籍　地</td><td colspan="3">都・道・府・県</td><td>外国人
国　籍</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">保　証　人
（父母またはこれに代わる者）</td><td>氏　名</td><td colspan="2"></td><td>年齢</td><td></td><td>続柄</td><td></td></tr>
<tr><td>現住所</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td rowspan="3">志　望　科　目</td><td colspan="2">領　域</td><td colspan="2">主　科　目</td><td colspan="3">主任教授等又は研究指導教員
署名欄</td></tr>
<tr><td colspan="2">（第１志望）</td><td colspan="2"></td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">（第２志望）</td><td colspan="2"></td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>入学に関し諸通知を受ける場所</td><td colspan="7">〒　　－
TEL（　　）　　－</td></tr>
<tr><td rowspan="3">入学出願資格</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td><td>(5)</td><td>(6)</td><td>(7)</td><td>(8)①</td><td>(8)②</td><td>(8)③</td><td>(8)④</td></tr>
<tr><td>(9)</td><td>(10)</td><td>(11)</td><td colspan="8"></td></tr>
<tr><td colspan="11">募集要項の「Ⅳ 入学出願資格」により該当する番号に〇を付けること</td></tr>
</table>

備考　(1)願書記入の際は募集要項を熟読の上、記入漏れのないようにすること。特に志望科目の記入に注意すること。希望する場合のみ、第２志望の科目を記入すること。
(2)履歴事項は裏面に記入すること。
(3)出願者は事前に志望科目の主任教授等又は研究指導教員の承諾を得ておくこと。（研究指導教員については、P.12 以降の担当教員欄を参照すること。）
(4)押印は不要

履　　歴　　書

	年　月　日	事　　項
学歴・高等学校卒業以上		
職歴		
免許・資格等		（　　第　　号）
		（　　第　　号）
		（　　第　　号）
賞罰		

上記の通り相違ありません

令和　　年　　月　　日

氏　　名

令和９年度（２次募集）
和歌山県立医科大学大学院医学薬学総合研究科
生命医療学専攻（博士課程）志望理由書

氏　名	

【志望理由】

令和９年度（２次募集）
和歌山県立医科大学大学院医学薬学総合研究科
生命医療学専攻（博士課程）入学試験
写　真　票

受験番号	※　博　第　　号
領　域	
志望科目	
ふりがな 氏　名	
生年月日	年　月　日生

写　真
縦４㎝×横３㎝

（注）※印の欄は記入しないこと

切り離さないで提出してください。

令和９年度（２次募集）
和歌山県立医科大学大学院医学薬学総合研究科
生命医療学専攻（博士課程）入学試験
受　験　票

受験番号	※　博　第　　号
領　域	
志望科目	
ふりがな 氏　名	
生年月日	年　月　日生
試 験 日	**令和９年１月８日（金）**
試験時間	専門筆記試験　11:00～12:00 面　接　13:30～16:30 語学試験　17:00～18:30

写　真
縦４㎝×横３㎝

（注）※印の欄は記入しないこと

研　究　計　画　書

氏　名	

研　究　課　題	

1. 年次計画

2. 大学における主たる研究日

注：　上記項目について、1～4 年の学年毎に記入すること。

本様式に直接記入するか、本様式（Ａ４判）に準じてパソコン等により作成すること。

博 士 課 程 用

和歌山県立医科大学大学院医学薬学総合研究科

入 学 検 定 料 納 付 書

受 付 番 号	※	受 験 番 号	※

受 験 者　（楷書で書いてください）

住　所

氏 名（フリガナ）

注　意

入学検定料３０，０００円を同封の振込依頼書で振込み、振込みを済ませた後、金融機関窓口で返還された書類のうち、入学検定料振込金受付証明書（C票）を、下欄に貼付してください。（取扱金融機関の収納印があることを、必ず確認してください。）

入学検定料振込金受付証明書（C 票）　貼付欄

（　証明書貼付　）

（注）※欄は記入しないでください。

受　験　許　可　書

氏　　名

生年月日

上記の者が、令和９年度（２次募集）和歌山県立医科大学大学院医学薬学総合研究科生命医療学専攻(博士課程)の入学試験を受験することを許可します。

令和　　年　　月　　日

和歌山県立医科大学長　様

所在地

機関名

所属長（職・氏名）

令和９年度（２次募集）
和歌山県立医科大学大学院医学薬学総合研究科
生命医療学専攻（博士課程）出願資格審査申請書

令和　　年　　月　　日

和歌山県立医科大学長　様

（ふりがな）
氏　　名

生年月日　　年　　月　　日生

貴学大学院医学薬学総合研究科　生命医療学専攻(博士課程)の出願資格審査について、所定の書類を添えて申請いたします。

<table>
<tr><td rowspan="2">志望する領域、主科目</td><td>第１志望</td><td colspan="2">領域</td><td>主科目</td></tr>
<tr><td>第２志望</td><td colspan="2">領域</td><td>主科目</td></tr>
<tr><td rowspan="4">学歴
(高等学校卒業以降から記入)</td><td colspan="2">昭･平･令　年　月　日</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">昭･平･令　年　月　日</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">昭･平･令　年　月　日</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">昭･平･令　年　月　日</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">資格</td><td colspan="2">昭･平･令　年　月　日</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">昭･平･令　年　月　日</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="6">職歴
（在職歴のある者は在職中も含めて記入してください。）</td><td colspan="2">期　　間</td><td colspan="2">最終学校卒業後の経歴</td></tr>
<tr><td colspan="2">昭･平･令　年　月～昭･平･令　年　月</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">昭･平･令　年　月～昭･平･令　年　月</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">昭･平･令　年　月～昭･平･令　年　月</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">昭･平･令　年　月～昭･平･令　年　月</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">昭･平･令　年　月～昭･平･令　年　月</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>現住所</td><td colspan="4">〒
Tel(　　)　　―</td></tr>
<tr><td>審査結果通知先</td><td colspan="4">〒
Tel(　　)　　―</td></tr>
<tr><td rowspan="3">入学出願資格</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td><td>(5)</td><td>(6)</td><td>(7)</td><td>(8)①</td><td>(8)②</td><td>(8)③</td><td>(8)④</td></tr>
<tr><td>(9)</td><td>(10)</td><td>(11)</td><td colspan="8"></td></tr>
<tr><td colspan="11">募集要項の「Ⅳ 入学出願資格」により該当する番号に○を付けること</td></tr>
</table>

研　究　活　動　歴

氏　名	

年　月	事　　項

注：　学会及び社会における活動等について、活動内容（研究発表等を含む。）及び期間を年次順に記入すること。

　本様式に直接記入するか、本様式（Ａ４判）に準じてパソコン等により作成すること。

【大学院博士課程入学試験用】

（切り離して納付してください。）

A票（大学院博士課程入学試験用）

電信扱

和歌山県立医科大学大学院医学薬学総合研究科　入学検定料

振　込　依　頼　書

手数料振込人負担

ご依頼日	令和　年　月　日	電信扱	手数料						
先方銀行	紀陽銀行　紀三井寺支店	金　額		￥	3	千 0	0	0	円 0
受取人	普通預金　0627227	内訳	通　貨						
	こうりつだいがくほうじん　わかやまけんりついかだいがく								
	公立大学法人　和歌山県立医科大学		振　替						
整理番号	←この数字はフリガナの前に打電すること	領収済印又は振替印	取扱金融機関収納印						
B00002	(フリガナ)※		A						
ご依頼人 氏名	※								
ご依頼人 住所	※　電話　（　）		3ヶ所押印						
		送信番号							

※印欄は必ず記入してください。

〔取扱金融機関へのお願い〕
1.　必ず、フリガナの前に整理番号を打電してください。
2.　B･C票は、必ずご依頼人へお返し下さい。

金融機関使用欄

（取扱金融機関保存）

金融機関で切り離して下さい

B票（大学院博士課程入学試験用）

和歌山県立医科大学大学院医学薬学総合研究科　入学検定料

振込金(兼手数料)受領書

令和　年　月　日	手数料					
金　額		￥	3	千 0	0	0	円 0
先方銀行	紀陽銀行　紀三井寺支店						
受取人	普通預金　0627227						
	こうりつだいがくほうじん　わかやまけんりついかだいがく						
	公立大学法人　和歌山県立医科大学						
ご依頼人（氏名）	(フリガナ)※						
	※						

※印欄は必ず記入してください

上記金額、正に領収しました。
【取扱金融機関】

銀行

支店

取扱金融機関収納印

B

3ヶ所押印

（取扱金融機関→ご依頼人）　大切に保存してください。

振り込み後自分で切り離してください

C票（大学院博士課程入学試験用）

和歌山県立医科大学大学院医学薬学総合研究科　入学検定料

振込金受付証明書

金額	￥	3	千 0	0	0	円 0
先方銀行	紀陽銀行　紀三井寺支店					
受取人	公立大学法人 和歌山県立医科大学					
整理番号	B00002					
フリガナ	※					
氏名	※					

※印欄は必ず記入してください。

公立大学法人
和歌山県立
医科大学
医学薬学総合研究科

取扱金融機関収納印

C

3ヶ所押印

（ご依頼人→大学）貼付用

交通案内

○JR紀三井寺駅より徒歩約10分
○JR和歌山駅より和歌山バス利用
「医大病院」又は「医大病院前」停留所下車
約30分
○南海和歌山市駅より和歌山バス利用
「医大病院前」停留所下車　約40分



